



言葉と体験、習得と探究をつなぐ 情報の時間

紙と鉛筆から始める

新しい情報“学”教育

—言葉と体験、習得と探究をつなぐ

「活用する力を高めるために—

- 目次 -

本校の研究の概要..... 2

情報教育の転機..... 3

「情報の時間」のカリキュラム..... 6
活用する力を高める「情報の時間」実践の様子

在校生へのアンケート..... 10

「情報の時間」から始まった新しい授業実践..... 11
「情報の時間」から各教科・総合的な学習の時間へ

本冊子の要旨

いわゆる「PISA ショック」を背景にして改訂された学習指導要領では、「各教科における言語活動の充実」を求めています。

滋賀大学教育学部附属中学校では、総合学習「BIWAKO TIME」を27年間続けています。その学習を円滑に進めるため特設したキャリアメディアに端を発する「情報生活科」が、情報機器を使いこなす発表等に一定の成果を上げる一方で、発表方法には多大な関心を寄せても、発表内容については吟味せず鵜呑みにしてしまうという傾向が浮き彫りにされました。

「情報の吟味や生産の力を持たない」という障壁は、「各教科における言語活動の充実」が今後生み出すと予想される課題と同じものです。その解決策を求め、過去の教育実践に学ぶ教育研究はもとより、コンピュータの進歩にあわせて発達した「情報学」の新しい風を、教科等および総合的な学習の授業改革に結びつけようとする取り組みを始めました。情報(文字・絵など)を理性と感性の両面からとらえ、批判的に吟味し自分の考えを生み出し発信していく生徒を育てることを目標に、教科横断的に中学生に必要な情報に関する知識や思考法を束ねようとしています。

生徒アンケートの結果や授業研究会を通して、「情報の時間」が、教科等や総合的な学習の時間において、活用する力の育成に資することが明らかになりつつあります。